

竹の子会の基本目標

1. 人間形成への修練
1. 地域社会への奉仕
1. 会員相互の親睦



竹の子会会報

No.612

 竹の子会総務委員会
 令和3年7月15日

6 月度例会(65周年記念式典部会)



65周年記念式典部会
 部会長
 棚橋 建太

皆さま、こんにちは。今期、65周年記念式典部会の部会長を務めさせていただきました、62期入会の棚橋建太です。

去る令和3年6月12日(土)に、大垣フォーラムホテルにて、65周年記念式典事業が開催されました。当日、ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

本来ですと、今回の65周年記念式典事業は、令和3年5月22日(土)に開催、多くの来賓・特別会員の皆さまにご参加いただき、記念式典、その後、懇親会を執り行う予定でした。しかし、新型コロナウイルスの影響により、65周年式典事業を6月に延期、そして、5月末には懇親会の中止の決定。皆さまには、一転二転したご案内になり、多大なご迷惑をおかけしたことを、改めてお詫び申し上げます。

開催自体が危ぶまれましたが、当日、会場を2つに分け、万全な対策をしました。また、今までに取り組んだ事がない、記念式典の様子を、YouTube配信いたしました。今までにない事を計画でき、良かったと思います。色々な問題や課題はあったと思いますが、今できる最大限の事業ができたのではないかと考えております。

記念式典事業は、5年に1回しか経験できません。これを経験できないまま、卒業する

会員の方もいらっしゃると思うのですが、今回記念式典に携わることができました。

僕自身も60周年記念式典の時には、竹の子会に入会しておりませんでしたので、イメージも湧きにくく、また、実際経験している会員も多くなかった為、部会を何回も重ねました。そのおかげで、会員の結束力が高まったと思います。多くの先輩に創り上げていただいた、伝統ある大垣竹の子会が、70期、80期と長く続いていけるような青年団体にしていきたいと思います。

最後になりますが、今回、今西会長の元で部会長、副会長を経験させていただいたのは、自分にとって大きな財産でした。本当に今西会長には感謝をしております。また65期、最高のメンバーで1年間を過ごせました。

皆さまのおかげで、刺激ある、濃い時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。



卒業生あいさつ



三島 秀昭

皆さん、こんにちは。55期入会の三島です。この度65期をもちまして卒業する運びとなりました。

振り返ればとても濃く、あっという間に過ぎてしまった11年間でもありました。

新入会員として、不安いっぱい参加した会員オリエンテーション。緑の村公園に泊まりで参加し、お酒をたくさん酌み交わしたことをこの間のことのように思い出します。最初に配属された親睦委員会では主の事業を担当する委員会では礼儀やマナー、事業の作り方、会員同士の親睦など沢山のことを経験し学ばせていただき、とても濃い一年を過ごしました。

そして57期には国際交流委員会の委員長として海外児童文化交流事業を行えたことは非常に大きな経験でした。日本と韓国の小学生児童達をお互いホームステイをしあい文化交流を行うという事業で、児童達が発表する出し物を練習したり、韓国語講座をしたり、昌原青年会議所と密に連絡をとりながら、無我夢中で頑張った一年だったのを覚えています。とても大変な事業でしたが、最後、児童達のお別れの際、涙する姿を見た時、込み上げる感情と達成感で胸が一杯になりました。本当に素晴らしい事業だと思います。今は会員同士の交流しか行えてない現状ですが、こういった事業を行っていたという会の伝統を今後も引き継いでいていただきたいと思います。

そして62期には会長という大役を経験させていただき、自分にとって大きな達成感と感動を感じた一年でした。スローガンに「万里一空 明るく元気に仲間とともに」を掲げ、自分たちができる精一杯の事業を行いました。委員会を合体させたり、たくさんの事業を行いました。会員の皆さまの多大な

ご尽力、諸先輩方のご支援、ご協力もあり無事やり遂げることができ、とても楽しい一年間でした。改めて心より感謝申し上げます。

そして卒業の65期は記念期ということで、記念事業と式典と最後に大きな事業を経験させていただきました。64期後半より新型コロナウイルスの影響で思うように会の活動ができない状況でしたが、会員皆さまと一緒に対策を考えながら事業を行えたことはとてもいい思い出です。改めて竹の子会の結束力の強さを感じました。少人数とはいえ、このような大きな事業ができるということに自信をもってこれからも活動していただきたいと思います。

大垣竹の子会に入会し、人間形成への修練、地域社会への奉仕、会員相互の親睦という目標にそってこれまで活動してきましたが、いざ卒業となった時、正直まだまだ勉強したいと思いました。入会から卒業まで色々な役職を経験しましたが、役が人を成長させるとよく聞きますが、ほんとうにそうだと思います。会員の皆さま、縁があつて入会している竹の子会です。様々な役職、事業を経験して自分自身の成長に役立ててください。

最後になりますがこれまでご支援、ご指導、ご鞭撻、ご尽力いただきました諸先輩方と会員の皆さま、心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



第65期 終了のあいさつ

一年を終えて



第65期
会長
今西 勇人

第65期会長を務めさせていただきました、今西勇人です。昨年の令和2年7月よりスタートした65期ですが、無事終了するにあたり、この一年間を通じてご尽力いただきました特別会員の皆さま、関係各位の皆さま、そして現役会員の皆さまに改めて心から感謝申し上げます。

『継往開来～大志を抱け！感謝の心と共に～』をスローガンに掲げ、コロナ禍の真っ只の中スタートいたしました。今尚コロナの波は収束の目処が立たず、まさにコロナに翻弄された期となりました。全ての事業が常にコロナの影響で判断に悩む日々でした。中止せざるを得ない事業もあったり、昌原市との交流も出来ないなど大変悔しい思いもしました。しかしマイナスな事ばかりではありませんでした。この状況だからこそ出来た事業もあり、またこのコロナ禍だからこそ生まれたアイデアもあり、色々な状況のなか柔軟に対応する事で、とても多くの事を学べた期となりました。

なかでも特に印象深かったのが、12月に行われた交通遺児のクリスマス会でした。コロナ禍や非常事態宣言下の影響で夏の思い出を残せなかった児童達のために夏祭りを開催しました。射的やかき氷など夏の風物詩となるアトラクションを行い、そして児童達自らがデザインした打ち上げ花火を打上げました。ひまわり畑の所までバスで行き寒空の澄み渡った夜空の中で打ち上げられた花火はいつも以上に綺

麗でした。きっと児童達やご家族にとっても、また会員一人一人にとっても一生忘れられない記憶に残る打ち上げ花火だったと思います。

また65周年記念事業では、『竹の子アウトドアキャラバン』と題して、このコロナ禍でも出来るアウトドアに因んだイベントを企画しました。メインアトラクションである気球乗船体験が大垣城の前で行われました。前大垣市長であります小川敏様や若原OB会長にもご乗船いただき、『このような体験ができ最後に良い思い出を作ってくれてありがとう』と、小川敏様からお褒めの言葉をいただきました。大垣城ホールではボルダリングや楽器製作、様々なワークショップが開催され多くの市民の方にお越しいただき、また沢山の児童達の笑顔を見ることができ、会員全員で創り上げた素晴らしい事業となりました。

他にも今期はこの場ではお伝えきれない素晴らしい事業が行われましたが全てをご紹介出来ないのが残念です。しかし、どの事業もこのコロナ禍の中で出来る最大限の事が出来たと確信しております。川上直前会長や常任メンバーをはじめ、全ての会員の皆さまのお陰で65期を成功に導く事が出来たと思います。

最後になりますが、65期の一年間を支え、ご尽力、ご協力を賜りました関係各位の皆さま、特別会員の皆さま、そして共に盛り上げていただいた会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。一年間本当にありがとうございました。



第66期スローガン

『問い続ける～現在を見つめ 志す未来へ～』



第66期
会長
名和 良能

この度第66期会長を務めさせていただきます、第58期入会の名和良能です。伝統ある竹の子会会長に選任していただきまして、大変光栄であるとともに、諸先輩方が永きに亘り築いてこられました伝統と歴史の重さに、身が引き締まる思いでございます。

私は、竹の子会に入会し、9年目を迎えることになりました。現在に至るまで様々なことを経験させていただき、先輩や後輩、同期、関係諸団体の皆さまからたくさんのことを学ばせていただきました。

今日を取り巻く環境においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、政府から緊急事態宣言が発令されるなど、普段とは全く違った日常となっております。そんな中、竹の子会の事業が予定通り開催されるのかと心配される会員の方もおられるのではないかと思いますし、66期においても例年とは違った会の運営を求められると考えております。このようなモノに触れることへの意識を大きく変えた時代において、新しい生活様式を実践したうえでの事業運営を計画していかなくてはなりません。

青年期の私たちは社会人として、また人間として一番成長が見込める年代です。竹の子会の活動は40歳までという限られた時間の中での活動となり、その中で何か一つでも自分の財産を見つけてほしいと思い、『問い続ける～現在を見つめ 志す未来へ～』を今期のスローガンにさせていただきました。『問

い続ける』という言葉は非常にシンプルな言葉ですが、どんな場面においても自問自答するということです。私は、何故この会に入会したのか、何を得たのか、会を継続できているのはなぜかと自分自身に問い続けていくことが、ひいては自身を成長させる一助になると信じております。現在の自分をもう一度見つめなおし、会に対する想いを振り返り、活動に励み培ったことが今後の未来に役立っていくと思います。

人生は決断の連続です。その都度、自分の中で最良の選択ができるよう自身を見失うことがないように、会員の皆さまと共に邁進してまいりたいと思っております。

また今期は、第50期大垣市青年のつどい協議会に、会長として蒲田晃二君、副会長として小島裕則君、事務局長として野原利秀君に出向していただいております。我々の仲間が本会の代表として活動しているのだという意識を全会員が忘れることなく、竹の子会の事業と同様に積極的に参加協力し、大垣市および両会の発展に寄与してまいりたいと考えております。

最後になりますが、今期で66年という長い歴史を刻む大垣竹の子会の、更なる発展を目指し精一杯精進してまいりますので、現役会員をはじめ特別会員、関係各位の皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

1年間よろしくお願いいたします。

7 8 月の予定

会員オリエンテーション

日 時：令和3年7月9日（金）
場 所：奥の細道むすびの地記念館2階多目的室1

7月度例会(通常総会・懇親会)

日 時：令和3年7月21日（水）
場 所：大垣フォーラムホテル

第37回水門川万灯流し

日 時：令和3年8月7日（土）
場 所：水門川一帯

8月度例会(第52回交通遺児夏のつどい)

日 時：令和3年8月22日（日）
場 所：しいたけ園バーベキュー場